

発行所 社会通信社 発行人 滝野 忠

ホームページ <http://shakaitsushin.cool.coocan.jp/> e-mail: shakaitsushin@nifty.com

東京都渋谷区本町六丁目二八―二九〇四 電話・FAX(03)3299-5367

郵便振替 〇〇一〇〇―九一五八四三一 労金 中央労金本店 No.1154163

〈もくじ〉

■巻頭言■

闘い、学び、若い仲間呼びかけよう！

関口 正章：2

コロナの実の雇用破壊許さない

仲間と話し合えた「オフピーク通勤」 上野 反合研：3

新型コロナウイルスの感染拡大で窮地に 千葉 幸一：4

BIと普遍主義の終焉 原 野人：5

― 小山・上野論争に寄せて(10)―

ヨーゼフ・デイツゲンに関連して 中澤 秀行：6

― 独学で哲学を学び唯物弁証法を発見した一ドイツ人労働者(2)―

政府・警察権力の大弾圧は許さない 井沢 清：9

― 1月1日 寒風の大府警本部前抗議行動400名が参加―

マルクス主義とマルクス主義者(1) 滝野 忠：10

読者からのおたより …………… 12

刊 旬 社 会 通 信

NO.1329

二〇二一年二月一日号

二〇二一年二月一日発行
(毎月一日・二五日二回発行)

闘い、学び、若い仲間呼びかけよう！

コロナを口実にした、雇用破壊・労働条件の切り下げを許さない

2021年あけましておめでとうございます。今年もよろしくお願いいたします。昨年は、コロナウイルスによる世界的な感染拡大で、私たちの生活が一変しました。反合研の例会や学習会も中止となったり、Zoomによるリモート学習会の開催となりました。

1970年代より政府は行政改革を推し進め、医療現場（保健所を含む）では、国立病院や各行政区にあった保健所の統廃合が推し進められてきました。柏市の市立病院でも感染症対策のための病棟がありました。結核等の患者が減ったこともあり、病棟を維持するには金がかかると20年以上も前に廃止してしまいました。そのツケが全国各地の医療現場で起きています。

今病院では医療従事者が不足し、看護師の夜勤回数が増える中、高齢の入院患者が多いので、感染対策をしながら医療の処置もするが介護もするという、一人で何役もしなければならぬ状況になっています。これが自民党政権と財界が推し進めてきた行政改革の結果です。こうした医療逼迫の状況にもかかわらず、菅政権は医療拡充策を打ち出すこともなく、「自助」を前面に出して自己責任を国民に押し付け、自身は自分で守れと言っています。

JR東日本でもコロナの影響による収入減・赤字の宣伝を大々的に行い、「変革2027」をスピードアップして遂行することを発表しています。終電時刻の繰り上げで、夜間の設備保守をしている労働者の労働条件を改善させると言っていますが、現場第一線で働く労働者からは、労働時間が長くなり余計にきつくなると不満の声が出されています。

会社は機械の導入で仕事の効率化と人の手による作業を減らすとされていますが、機械が大型化して現場では線路内への出し入れが煩雑になり、初電までに作業終了できるか気が休まらないと言っています。初電を遅らせることにでもなれば準備の在り方、作業の進め方、リスク管理の在り方など些細なことまで干渉・せんさくされ、現場で働く労働者のためにはならないと考えます。

上野支部でこの間たかかってきた職場代表者選挙では、「安全衛生委員になり、コロナ感染予防のためのマスク・消毒液・窓口のシールド等の要求を組合員・社員の声を聴きながら実現させてきた」「LINEを使って不安や不満を聞き取り、安全衛生委員会で会社に要求し、そのやり取りの結果報告をまたLINEで返すという事をしながら取り組んでいる」という報告もされています。

現在の資本主義社会で生きていくためには、資本金家（会社）に雇われて労働しなければ生活をすることができませんが、ただ黙って言われた通りに働くだけでなく、おかしいことはおかしいと改善を求め闘わなければ働き続けることはできません。その為にもこの社会の仕組みや矛盾を学習し、我々労働者が主人公となる社会の実現に

向けて取り組みを強化していかなければなりません。

今年を上野反合研結成20年になります。まわりの仲間働きかけ、国労運動の再構築と若い仲間の拡大に向け闘い続けましょう。(国労上野反合研代表 関口 正章)

仲間と話し合えた 「オフピーク通勤」

今春のコロナ「第一波」の中、池袋駅で「オフピーク通勤」(始終業時刻の2時間繰り下げにより勤務時間を10時55分〜翌日11時25分にする)の試行が、労働組合に話もされないまま一方的に駅側から提案され、Sさんから国労の職場役員が若い人らの声(「初電担当は明けの日、3時過ぎから11時過ぎまで働くことになりきつい」「9時25分の明けを見込んで用事を予定している」)を背に、駅長ら駅幹部に抗議した話は、すでに報じた。

感染への恐怖もあるため、「オフピーク通勤を歓迎する声も職場にはあったのではないか」という疑問もわいた読者もいたのではないかと思われるが、Sさんからその後の話と取り組みの感想が寄せられたので、文章は紙面の制約上編集部での再構成になるが、紹介したい。

駅側は、初電担当のみ元に戻し、その後、全面的に撤回

その後、支部を通じて地本に団体交渉を要請するとともに、職場では再度、仲間の意見を聴く。仲間からは、若い人でも「身体がきついから反対」が圧倒的に多く、賛成意見では「朝ゆっくりできる」「前日遅くまで飲んでいられる」「子どもを学校へ送り出せる」があったくらい。駅長とも再度の話し合いを持ったが、「コロナ感染から社員を守るため」の一点張り。Sさんは「明けが11時過ぎでは身体が疲れてかえって逆効果」と反論。4月2日から実施されたが、危惧した通り、明けで改札に立てなくなった仲間も出て、4月15日には初電担当だけが8時55分出勤に戻された。その同じ4月15日、団交が開催された。

Sさんからは、泊まり勤務の健康への有害性と繰り下げによるさらなる負担、駅側の一方的態度について訴えた。支社は「就業規則や危機管理本部指示に基づくもので問題はない」としながらも、職場でのコミュニケーションが大事と回答。

その後、職場では組合未加入の社会人採用者7人が、「オフピーク通勤」への社員アンケートを始め、8割の反対を集約。実はその前にSさんが担当助役にアンケートをとることを申し出ていたが、駅側が反対したのである。最終的に会社は、アンケートによる職場労働者の反対多数に加え、あがり時間がバラバラだと「サービスマン」や「委員会活動」に影響があることも考慮し、9月1日から元の作業ダイヤに戻した。

以下は、Sさんの感想。今回の「オフピーク通勤」の取り組みを通しての成果は、若手社員といろいろな話ができただけのこと。これが最大の成果だと思っている。そして「怒り」があれば職場にはまだ会社に対してモノを言う力が残っていることを感じた。

もちろん私が初めに「おかしい」と声をあげたことも大切なことだし、若手社員の「怒りの声」が、現場長交渉をする私の背中を押してくれたことも事実である。そし

てなによりも改札の若手社員の多くが私にいろいろ報告してくれたことがうれしい。これは、職場での食事作りなど世話役活動を通して若手との信頼関係ができてきたことを示している。まだ国労加入へは結びついていないが、急がば回れで、自分としてはコツコツ続けていきたいと思う。(国労上野反合研事務局『討議資料』No.210)

新型コロナウイルスの感染拡大で窮地に

新型コロナウイルスの感染拡大が終息する気配が見えない。息子夫婦は地元で寿司店を営業している。寿司店としては比較的大きな店だが零細個人事業主でお盆や正月は無休、定休日は週1回で2人で頑張ってきた。親が言うのは如何かと思うが、働きの者の夫婦だ。

2018年9月の台風が直撃し、近所の床屋さんが火災し、延焼を避けるために消防による放水と台風による横風で店舗の客室部分が被害を受けた。掛かりつけの工務店には補修工事が殺到したため、応急処置でしのぎ2020年2月、3週間休業し本格的な内装の改修工事を行い、3月には取引先や常連客のお祝いを受けながら順調に営業再開した。

ところが4月7日に、新型コロナウイルスの問題で東京、千葉、神奈川、埼玉、大阪、兵庫、福岡の7都県に「緊急事態宣言」が出され、「休業」を余儀なくされた。その後4月16日に「緊急事態宣言」の対象は全国に拡大された。

「事業持続化給付金」が法人に対して国から200万円、県と市から合わせて60万円計260万円が支給された。千葉県が「緊急事態宣言」を解除されたのは5月25日。常連客の多くはシニア、家族だったので、その後売り上げは通常の3分の1に下落。消毒薬や空気除菌清浄機、体温計、更にはGOTOイートに対応するための機器などの投資を行い、万全の体制を取ったものの、GOTOトラベルの再開もあつて感染者は全国的に増える一方に。

年末・年始の忘年会、新年会も全てキャンセルとなった。その後も新規陽性者が増え続けると共に、売り上げは一時通常の4分の1にまで減ったという。何とか挽回すべく年末・年始で頑張り、親戚や常連客の後押しもあつて売り上げは徐々に回復しつつあつた。

今年1月8日再び「緊急事態宣言」が出され、飲食店は午後7時まで酒類の提供、8時閉店とされた。1日最大6万円の協力金が支払われる。規模や売り上げによって協力金の額がどうなるのかは現在のところ分からない。

規模が小さく10人程度の収容の店、売り上げ6万円以下の店は協力金で十分維持することができるところだが、大きな店舗の損害は計り知れない。息子の店は家賃がない、人も雇っていないが、建物が大きいだけに固定費は大きい。

協力要請に応じない店は公表するという。飲食業の息子の仲間たちもどうすべきか悩んでいるという。息子は前回の「緊急事態宣言」時に、中型のキッチンカーを購入しているが、どうするか悩み色々考えると眠れず決めかねているという。

予定通り2月7日に終息し解除されるのか不安は尽きない。前回は「休業要請」だ

ったが、今回は「時短要請」で生殺しの状態ともいえる。生ものを扱う寿司屋は2、3時間の営業では原材料のロスが出る。

私見だが、今回のような中途半端な対策で感染が終息するとは思えない。経済が大それたものなら、思い切って期間を限定して補償を充実させ完全休業とすべきだと思う。2頭を追っても成果は上がらない。

そもそもGOTOトラベルやイートは感染が終息した後の経済対策だったはずだ。毎日発表される新規感染者数の動向に一喜一憂しているのは私たちだけではないはずだ。年金が少ない私は、今なお息子の援助を受けている。新型コロナウィルスの問題が早く終息することを願うばかりだ。
(1月12日記、千葉 幸一)

B I と 普 遍 主 義 の 終 焉

― 小山・上野論争に寄せて(10) ―

良いB I と悪いB I

竹中平蔵君が菅政権の下で、B I によって民衆の生活と権利を徹底的に破壊しようとしているというのに、脳天気にも上野君などは『社会主義』1月誌上に、コロナ禍でB I が浮上すると書く。事ここに至っても恥ずかしげもなく良いB I があると説く。彼等は「個人単位の10万円一律給付は、所得税の累進性強化と消費税廃止・減税とのセットで構想されるべき」とし、いまだに「普遍主義」、「一人ひとり給付を受ける権利において平等であること」を掲げる。

「144兆円」一律給付

「個人単位の10万円一律給付」だと1回で12兆円を要する。これを月額B I として年間支給するとなれば国家予算106兆円を遥かに超える144兆円を要する。

今や医療は崩壊して「命の選別」が行われる事態である。病院や医療従事者の急速な拡充と待遇改善が喫緊の課題となっている。失職者や収入減が激増して生活を奪われ、子どもの養育もできない人や、大学や高校を辞めねばならない人があふれている。12兆円や24兆円や144兆円があつたら、どれほどの民衆の救済ができることか。

ありうるB I とは

しかも年間所得が何億円もある資本家階級にも一律給付だという。「所得税の累進性強化と消費税廃止・減税とのセットで」などといっても、当面の政権において、国際競争のいよいよ激化する今日、法人所得税であれ、個人所得税であれ、資本家階級が累進税率の引き上げを許容することはあり得ないし、消費税廃止もあり得ない。ありうるのは竹中平蔵君の提起するB I で社会保障制度を解体し、労働条件を改悪し、切捨て御免の社会に戻すことである。民衆のためのB I などというものはあり得ない。

上野君らの小ブルジョア的空論から党を守ろう

新社会党をさんざんな混乱に陥れてしまった上野君らの小ブルジョア的空論から脱

却して、党の指導部は一日も早く科学的路線に立ち戻り、竹中君や独占資本や自民党と対決して闘う以外に道はない。

反自民の革新政党で、B Iなどを掲げる政党は皆無である。いま必要なのは自民、公明や維新に対決するような勢力の総結集である。その核の一つになるべき我が党が2極に割れ混乱してどうするのだろうか。この4半世紀を頑張ってきた皆さんの労苦を無にすることなく、初心を忘れずに大きく前進しよう。(原野人)

ヨーゼフ・ディーツゲンに関連して

―独学で哲学を学び唯物弁証法を発見した一ドイツ人労働者(2)―

(四)レーニンのディーツゲンへの評価(1)―

↳「ディーツゲンの死去二十五周年によせて」↳

レーニンには、「ヨーゼフ・ディーツゲンの死去二十五周年によせて」(『レーニン全集』第19巻)という論文がありますので、紹介したいと思います。

前述のように、マルクスがクーゲルマンへの手紙で、エンゲルスが『フォイエルバッハ論』のなかで、彼らとは別の道で唯物弁証法にたどり着いたディーツゲンを評価しているのですが、レーニンは次のように述べます。

「独力で弁証法的唯物論、すなわちマルクスの哲学へ到達した労働者、これがディーツゲンの意義である。労働者ディーツゲンを特徴づけるうえで非常に貴重なことは、彼が学派の創始者とは自任していなかったということである。

ヨーゼフ・ディーツゲンはまだ少数の人々しかマルクスを理解していなかった一八七三年に、マルクスのことを一流派の首領としてかたっている。ヨーゼフ・ディーツゲンは、マルクスとエンゲルスが『欠くことのできない哲学上の一派を支配していた』ことを強調した。また、マルクス主義の主要な哲学上の著作の一つであるエンゲルスの『反デュリング論』が現われてからだいたい一八八八年に、ディーツゲンは一流派の『公認の創始者』としてのマルクスとエンゲルスについて書いた。」「(『レーニン全集』第19巻66〜67頁)と。

しかし、レーニンは次のようにも記しています。

「自覚した労働者となるためには、労働者はヨーゼフ・ディーツゲンを読まなければならぬが、しかしかたときも忘れてならないことは、彼がかならずしもマルクスとエンゲルスの学説をただしく叙述してはいないということ、哲学は、マルクスとエンゲルスからしかまなぶことができないということである。」と。そして、後段で、エンゲルスの『フォイエルバッハ論』を読んで勉強することの重要性を強調しています。

弁証法的唯物論の名著は『フォイエルバッハ論』であり、この『フォイエルバッハ論』の学習、研究を、レーニンは訴えているのです。

(五)レーニンのディーツゲンへの評価(2)―

↳『唯物論と経験批判論』のディーツゲン↳

さて、レーニンは何故に、ディーツゲンは「かならずしもマルクスとエンゲルスの学説をただしく叙述してはいない」と述べているのでしょうか。それは、レーニンの『唯物論と経験批判論』に、何回も何回も登場するディーツゲンを点検すると、答えがでてきます。

『唯物論と経験批判論』は1909年の作品であり、「ディーツゲンの死去二十五周年によせて」は1913年の作品です。レーニンの主著の一つである『唯物論と経験批判論』の「第二章 経験批判論と弁証法的唯物論との認識論 二」の第三節のタイトルは、「L・フォイエルバッハとJ・ディーツゲンの物自体についての見解」となっています。

ここでは、「ヨーゼフ・ディーツゲンは弁証法的唯物論者である。」と断定しつつ、続けて「われわれはのちに、彼の表現の仕方がしばしば不正確であり、彼がしばしば混乱におちいった」（国民文庫「1」156頁）と続けます。

また第五節では、ディーツゲンの『認識論の領域への一社会主義者の進撃』を引用したあと、「この最後のところは、ディーツゲンの不正確さの一つであって、マルクスが、クーゲルマンへの手紙の一つ（「註」1868年12月5日付け）でディーツゲンの見解における混乱を指摘せざるをえなかったのは、これである。」（国民文庫「1」178頁）と続けます。

しかし、「エンゲルスとディーツゲンのこれらすべての言明から、弁証法的唯物論にとつては相対的真理と絶対的真理とのあいだにこえがたい境界は存在しない、ということが明白にわかる。」（国民文庫「1」178頁）、と述べ、ディーツゲンの不正確さを指摘しつつも、エンゲルスと同様に弁証法的唯物論者であることを強調しています。

また、「第四章 経験批判論の戦友であり後継者である哲学的観念論者たち」の第八節のタイトルは「J・ディーツゲンはどのようにして反動的哲学者たちの気にいるようなことになったのか？」であります。

ここでは、レーニンはディーツゲンの『人間の頭脳活動の本質』を引用して「ここには明瞭なまちがいがあある。」としつつも、「本質的には、むしろディーツゲンにおける表現の不正確さである」と述べ、「ディーツゲンにある不正確さや混乱にしがみつくことをこのむ」「マツハ主義者」を批判しています（国民文庫「2」83〜84頁）。

また、「ディーツゲンは自分の考えを、エンゲルスとはちがって、あいまいに、不明瞭に、粥のように「どろどろとした、つかみどころのない状態に」表現している」と言いつつも、続けて、「しかし、叙述の不備と部分的な誤りをどければ、彼が唯物論的認識論と弁証法的唯物論を固守している」（国民文庫「2」86頁）、「彼は、十中の九までは唯物論者であって、いかなる場合にも、獨創性をも、唯物論とはちがった特殊な哲学をも、あえて望みはしなかった。マルクスについてディーツゲンはたびたび語ったが、それは、一流派の首領としてのマルクスについて以外ではなかった。ディーツゲンはマルクス主義者であった」（国民文庫「2」88頁）と、評価しています。

この第四章のなかで、レーニンが指摘している最重要点は、次の一節にあると思います。何を読むべきかを指摘しているのです。

「マルクスは幾度も自分の世界観を弁証法的唯物論と呼んだし、マルクスが原稿でその全体を読みおわったエンゲルスの『反デューリング論』は、まさにこの世界観を叙述している。」(国民文庫「2」87頁)

このように、レーニンは、弁証法的唯物論を自分のものとするのなら、『反デューリング論』に学び、研究を深めることが不可欠であることを述べているのだと思います。さて、レーニンは、マルクスとエンゲルスの哲学の党派性について、次のように述べます。

「マルクスとエンゲルスは、哲学において終始党派的であり、ありとあらゆる『最新』流派のうちに、唯物論からの逸脱と観念論および信仰主義にたいする過度の寛容とをあばきだすことができた。」とし、また、フォイエルバッハについては「唯物論を終りまでつらぬかなかつた」ことを指摘し、ゆえに「社会学の領域では観念論的空文句を脱却しえず、唯物論者になることができなかつたことで、彼を責めた。」(国民文庫「2」218頁)と結んでいます。

こうしたフォイエルバッハに対して、ディーツゲンに対しては、次のように評価しているのです。

「J・ディーツゲンは、弁証法的唯物論を叙述するにあたってどれほどの部分的誤謬をおかしたにせよ、彼の先生たちのこの最も偉大な、そして最も貴重な伝統を、十分に評価し、それを見ならつたのである。J・ディーツゲンは、その唯物論からの不器用な逸脱によつて多くの罪をおかしたが、しかしけつして唯物論から原則的に分離したり、『新しい』旗じるしをかかけたりしようとはしなかつた。決定的な瞬間には、彼はつねに確固として、またきつぱりと声明した、自分は唯物論者であり、われわれの哲学は唯物論哲学である、と。わがヨーゼフ・ディーツゲンはたたくもこう言っている、『すべての党派のうちで、最もいとうべきものは中間の党派である。……・政治において諸党派がますます二つの陣営に結集してゆくように、……・科学もまた二つの基本的部類にわかれる。すなわち、一方には形而上学者、他方には形而下学者または唯物論者である。唯心論者、感覚論者、实在論者、等々の、ありとあらゆる名前の中間項、調停しようとする山師どもは、途中でどちらかの思潮がながれこんでしまう。われわれは、断固たること、明瞭なことをめざしてすすむ。観念論者と自称しているのは、反動的な非開化主義者たちである。そして、唯物論者というのは、人間の知性を形而上学的魔術から解放することにとめているすべての人々のことでなければならぬ。……・この二つの党派を固体と液体にたとえれば、その中間にある粥のようなものである』(国民文庫「2」218〜219頁)、と。

『フォイエルバッハ論』の第二章「観念論と唯物論」の冒頭で、エンゲルスは、「すべての哲学の、とくに近世の哲学の大きな根本問題は、思考と存在との関係の問題である」と、問題提起をします。そして、「思考と存在、精神と自然」、これらのどちら

が根源的か、「この問題にどう答えたかに応じて、哲学者たちは二つの大きな陣営に分裂した」と述べます。

そして「自然にたいする精神の本性性」を主張した人々は「観念論の陣営」を、「自然を本源的なもの」とした人々は唯物論のさまざまな学派にぞくする」（岩波文庫28330頁）というわけです。

ですからレーニンも『唯物論と経験批判論』の「結論」のなかで、「結局において現代社会の敵対的諸階級の傾向とイデオロギーを表現している闘争を見ないわけにはゆかない。最新の哲学は、二、〇〇〇年前と同様に党派的存在である。あいたたかいつつある党派とは、博識ぶつた山師的な新しい呼び名または愚鈍な無党派性によっておおいにかくされてはいるが、事がらの本質上、唯物論と観念論である。」（国民文庫「2」244頁）、と述べています。

（2020年11月21日）
（信州松本 一労働者にして年金生活者 中澤秀行、つづく）

政府・警察権力の大弾圧は許さない

11月1日 寒風の大阪府警本部前抗議行動400名が参加！

数年に一度の寒波襲来で列島日本海側が大雪の元日、関西生コン支部に対する昨年の80名以上の逮捕・起訴をはじめ、菅政権の民主主義破壊や警察権力と一体となった全国各地の労働運動つぶしに対し、400名のユニオンや労働組合の仲間たちが怒りの声とたたかおうと氣勢を上げた。

集会はコロナに最大限配慮しつつ、近畿2府4県遠くは岐阜からも参加された。多くの人の闘いの報告や決意の表明が行われた。

関生加茂生コン事件、正社員化を求め団体交渉の申し入れ、就労証明書も求めた。

これが強要・脅迫で逮捕。この裁判の判決が昨年12月17日京都地裁であり、被告人とされた二人にそれぞれ懲役1年と8ヶ月執行猶予3年の不当判決、まさに政権に付度した判決だった。

また昨年6月、京都地裁前10日間連続抗議行動で、645日も長期拘留された武委員長ら2人釈放を勝ち取ってはいるものの、保釈条件など不当なもので、ますます闘いの輪を広げようと報告された。

ユニオンネットワーク京都、八尾北の労組、奈良教組など多くの報告がされた。若狭の原発を考える会の木原壯林さんは、「この間の関生の闘いで労働運動や大衆運動に良い結果をもたらし、運動の相乗効果を生んでいる。私たちの反原発運動も助けられている」と報告され、「昨秋9・6開催の『老朽原発うごかすな！大集会inおおさか』の1600名参加を得た要因の一つは関生闘争で得た仲間の協力と」報告された。

資本主義の危機の深化とともに相手はなりふりかまわってられない沙汰。まず憲法を守れである。

今冬最大の寒さだったが、3回目となった元旦行動、参加者も毎年着実に増えている。
（かんなま勝手連・しが 井沢 清）

マルクス主義とマルクス主義者

ある投稿

東京の某君が「謙虚に学ぼうマルクス主義」と週刊新社会（2020年12月15日付）に投稿していらっしやる。書き出しは『ぼくはマルクス主義者じゃない』と語った、とエンゲルスが書いていることはよく知られているという。恥ずかしながら私は、最近知った」で始まる。さらに「本紙周辺でも目を覆いたくなるような『マルクス主義（指導）者の罵詈雑言文』が散見され嘆かわしく思っていた」とつづげ、「マルクス主義者は謙虚であってほしい」と結んでいる。

孫引き

マルクスやエンゲルスがこの稿を読んで喜んでしようか、エンゲルスは「某君はぼくのいいたいことをよく伝えてくれている」と、某君に手を差し伸べるだろうか。まずはこの投稿で某君が何をいいたいのか、さっぱりわからない。彼は頭の中にかかしをつくって、それと永久に終わることのない格闘をしているかだ。編集部はこの投稿に、こんな題をつけなを目的に攪拌した意図もわからない。「目を覆いたく罵詈雑言」、いつ、だれが、「本紙周辺で」だつて。いわくありげであるが、どこで、どのような発言があつたかはいつさいない。これじゃ、トランプもどきで、変わらない。

はっきりしていることは、某君がマルクスを騙（かた）る学者が引用した、小さいけれど内容は海の底ほど深い「ぼくはマルクス主義者じゃない」という文句を孫引きし、鬼の首でもとつたように喜んでゐる、無邪気、「凡庸」な思想性である。原則的に太刀打ちできない相手をのしるに好都合の文句、レットルが見つかったと飛びつただけのことがまる見えです。悲しくさびしい御仁です

マルクス主義を本当に「謙虚に学ぶ」志があれば、マルクスがいつ、どこで、どのような事態に、エンゲルスにこの言葉を発したかを深く調べ考え、掘り下げる努力をしたうえで稿を起こすことですね。そんな志は皆無、ゼロです。某君の言論は中味が空っぽな言葉の遊びにすぎません。

マルクス主義は行動の指針

マルクスのこの言葉はじつに意味が深いのです。マルクス主義の根本は剰余価値の理論と唯物論的歴史観（唯物史観）です。少しばかりかじった人はわかったようなつもりになって、「唯物史観によれば……、上部構造と下部構造の関係は……」なんて口先だけの空っぽ大口上が、はやりになります。某君、あなたがマルクス主義をどのように学ばれたのかは知りませんが、古典や解説書を読み始めた時はそうだったんじゃないですか。ぼくもそうでしたよ。

最近、唯物史観とはどういうものか、弁証法とはが少しばかりわかったような気がしてきました。千葉の仲間の勉強会で猛勉強させられたからでしょう。『共産党宣言』

の記述の仕方、『資本論』の商品―貨幣―資本の論理の発展は歴史的かつ論理的です。マルクスの経済学の方法です。

中途半端でしかも根本から間違った投稿はマルクスとエンゲルス、そして唯物史観をロシアの大地に適応し、ロシア革命という人類初の偉業をなしたゲートレーニンに失礼というものです。(このことは次号で述べる)それは週刊新社会の編集部にもあてはまります。新社会党はすばらしい綱領と社会主義をめざす戦略と戦術をもっています。その名誉を汚さない編集が求められているではありませんか。

なにがいたい

某君は「マルクス主義者」の悪口はおっしやいます。しかし、身を張って命がけでマルクス主義を学ぼうとする覇気も意地も投稿からはちっとも見受けられません。昔からのことわざに「聞こうとしない人は聞こえない人より始末が悪い」というのがあります。

この稿をみて、某君はどういう御仁、彼はなにがいたい、さらにはマルクスはこの言葉をどういう歴史的背景で使ったのかと疑問を持ち、マルクス主義の理解を深めたいと考える週刊新社会の読者は少なくありません。私、滝野までいくつかの問い合わせがきています。この稿は、次から少しばかり難しくなります。脳髓のしわを搾っていただかねばなりません。おつき合いのほどよろしくです。マルクス主義がウンとおもしろく楽しくなり、頭が整理され、明日への勇気がわいてきます。

唯物史観

某君が孫引きした文句は「エンゲルスからコンラッド・シュミットへの手紙」にあります。時は1890年8月5日、マルクスは1883年に世を去ります。マルクスとエンゲルスはオーケストラの第1そして第2ヴァイオリンの役割を分業しておりました。マルクス没後、マルクス主義についての問い合わせがエンゲルスに集中します。なかでももっとも優秀な人物がこのシュミットです。彼は価値論のもっとも大きな「難問」をエンゲルスに問うてます。エンゲルスはそれに、「三巻出版に力をつくして。あなたの質問はここで解決される。それを待つてくれ」と返信しているほどにです。ちなみに、エンゲルスからシュミットへの手紙は1887年から16本もあるんです。以下がその手紙の(抜粋)です。

「パウル・バルトの本は、ヴィーンの『ドイチェ・ヴォルテ』誌に不運な人モリッツ・ヴィルトによって紹介されているのを見ました。そして、この批判は私にはこの本そのものにとっても不利な印象をあとに残しました。私はこの本を読んでみるつもりですが、私は次のことを言わなければなりません。すなわち、バルトはすべてのマルクスの著書のなかにただ物質的存在条件への哲学などの依存のたった一つの例を見いだすことしかできないとか、デカルトは動物を機械だと言っているとかいう点において、モリッツ・ヘンがバルトを正しく引用しているとすれば、こんなことを書ける人は私は気の毒に思う、と。そして、物質的存在様式が第一の動因ではあるが、そのこと

は、これにたいして再び観念的な領域が反作用的ではあるが第二次的な作用を及ぼすことを排除しはしない、ということをおのの人がまだ発見していないならば、彼は自分分がそれについて書いている対象を把握しているとはどういえないのだ、と。しかし、すでに述べたように、これはみなまた聞きで、モリッツヘンはいやな友人です。唯物史観も今日では多くの人々にとつて歴史を研究しないための口実として役だっています。ちょうどマルクスが七〇年代最後のフランスの『マルクス主義者たち』について『私が知っているのは、ただ、私がけつしてマルクス主義者ではない、ということだけだ』と言ったのと同じことです。」

エンゲルスがシュミットになにを云おうとしているのか、賢明な読者はおわかりです。よね。核心部分は「今日では唯物論的歴史観も、歴史を研究しない口実にそれを利用しているような味方をたくさんもっています」です。ですから、某君が考えているだろうことはまったくちがうんです。おわかりですね。 (滝野 忠、つづく)

◇読者からのおたより◇

原さん ニュース、ネットで見ています。原さん「ネットクギノゴトク」読みました。

(東京都世田谷区 三木信之介)

もううんざりだ ある先輩からの年賀状、年末の大雪で、自助共助で雪かきが終わり、そこに公助のブルドーザー到着と。自助、自助、自助で、全て国民の責任でG.O.T.O.の政策失敗も認めない影の薄い内閣、もううんざりですネ。

(長野県飯綱町 山浦隆芳)

ありがとう いつも正しい指針を有難うございます。私もニュースとしては「但馬ユニオンニュース」と個人的には「月刊まなぶ読者だより」を出しています。

(兵庫県豊岡市 岡田一雄)

今年こそ 今年こそお会いできるとよいのですが…

(北海道浦幌町 米澤昭彦・恵子)

お元気ですか なかなか兼子家に遊びに行けません。

(北海道上士幌町 木下由季子)

ステイホーム 夕飯は夫の好きな唐揚げ、野菜サラダは大根・ニンジン・胡瓜をピーラーで薄くスライスに茗荷を刻んで胡麻ドレッシングを、焼き豆腐とさつま揚げに小口切りしたニンジンも加え甘辛煮物を。大根の糠漬けも。デザートは 昨夜焼いたリンゴの甘煮を底に敷いてクリームチーズでケーキを。久しぶりに作りましたが、手前味噌ながら、美味しく出来ました。今年もステイホームの為かケーキが 昨年より1・5倍は売れたとか。

(東京都武蔵野市 兼子千栄子)

転換点 「人生で一番大事なこととは成功することではなく歩むことだ」、世界で一番貧しい大統領ヒカの言葉です。昨年12月に亡くなった「映画アクティビスト」木下昌明さんの「座右の銘」でした。ビデオプレス設立から30年間、木下昌明さんは私たちを物心両面で支えてくれました。ビデオプレスの多くの作品が世に出たのも彼のおかげです。木下さんの生き方に学んで、私たちも歩んでいきたいです。

いま、本当に先の見えない時代になりました。でも大きな転換点であることは間違いありません。戦争や差別の道ではなく、人権と共生社会への転換をめざして、今年も「メディア発信」を続けていきます。

(東京都板橋区 ビデオプレス 松原明・佐々木有美)